

まつど未来づくり会議 会議録

分科会名：都市と産業分科会（第2回）

開催日時：平成21年8月28日（金）13時～16時

開催場所：中央保健福祉センター 地下会議室

出席委員：岩橋秀高（分科会長）、鎗田弘子（分科会副会長）、尾崎順邦、高橋清、中臺弘志、藤田宗晴、三宅治美、山下烈、横山元、丸田英二、越智章浩（敬称略、順不同）

欠席委員：宇野荒樹（敬称略）

事務局：木内博和、錦戸茂尚（政策調整課）

【会議内容】

■分科会長あいさつ

- ・学校のチャイムのような鐘が鳴り、子どもに戻ったつもりで話し合いに臨みたい。

■事務局説明（本日のねらい・進め方の確認）

- ・本日のねらい：「テーマ・政策に関する理解・探求促進」
- ・進め方：結論を出すのではなく、話し合いを通じて探求・理解を深めることを目的とし、第2回で話し合われた内容をもとに第3回以降で成果物を生み出していく。
- ・話し合いのルールの再確認
 - ⇒全ての意見に価値を置く
 - ⇒人の話をよく聴く
 - ⇒想いや考えは全体で共有する
 - ⇒時間厳守
 - ⇒未来に焦点をあてる

■チェックイン：「今の正直な気持ち」や「気になっていること」などの想いを共有

■分科会へのメッセージ・エール・依頼文の確認

■第1回分科会で話し合った内容の確認

■分科会へのメッセージ・エール・依頼文についての質問と回答

- ・ 工業団地の跡地利用とは。
- ・ これだと意味がわかりにくいですかね。工場の跡地ということでしょう。工業団地自体が消えてなくなるわけではありません。
- ・ 北松戸の工業団地に何か建つとかいうことですか。
- ・ これはそこまで意識したものではないでしょう。
- ・ 跡地と言っても、制限が多くてなかなか使えない。

■対話セッション

- ・ 政策17にある年齢別失業率について、私の経験からいうと、雇用保険をもらうために、本当は仕事を探していない人も、ハローワークに来ている。退職した人の場合、雇用保険の方が厚生年金より高いと、約1年間来る。細かく調べないと本当のことはわからない。働きたい人は働けるようにするというので、働きたい人がどんな職種を求めているのか。ハローワークにきた仕事はどんなものがあるのか。働きたい人とギャップがあるのではないか。
- ・ 若い人ほど失業率が高くなっているのはどうしてか
- ・ 雇用の枠があって就労がある。なかなかバランスしない。松戸市だけでなく世界的なこと。日本全体でみれば、松戸市はまだ低い方。ベッドタウンであることが要因としてあるだろう。
- ・ 60代も失業率が上がっている。会社の場合60歳で定年になる。高齢だから就職できないのか。60歳前から失業して60歳になったのか。働きたい意欲があって、働けないから失業なのか。
- ・ 私も60歳で定年した。実際、民間では60歳で定年になる。その後は1年ごとの臨時採用になるが、仕事がないので切られるのが現実である。地域社会で後押ししないと、失業は拡大するだろう。
- ・ 若い人に、昔のように失業したら大変だという意識があまりない。今の世の中、働かなくても食べられる。
- ・ 人口推計をみると、10年後もほぼ変わらないようになっている。田舎に帰る傾向が出てくるのではないか。松戸の人口は40万人を切るのではないか。
- ・ 財政全体をみて、厳しいところから脱却しつつあるということがデータ集に出ている。21世紀の森と広場を作るのに413億円かけたことが、その後の市の財政を圧迫している。もっと小規模化できたのではないか。自然をコンセプトにしているが、お金がかかりすぎ。儲けるわけではないが、地場農産物を売るとか、交流の場を作るとかしても良いのではないか。自然、自然といって手を突っ込ませないようにしているのか。
- ・ 農地について、市内の農地が毎年減っている。何とか減らないようにできな

いか。日本の食糧自給率は4割である。6割は外国のものを食べているというのは、脆弱ではないか。

- ・ 農業を続けられるようにしてほしい。相続税対策のために続けたり、後継者不足で続けられなかったりしている。
- ・ 観光地を結ぶルートが未整備である。ウォーキングルートが整備すれば、観光地化するのではないか。税収アップにもつながる。
- ・ 河川周辺整備が大事だ。
- ・ 江戸川周辺の空間は大事にすべきで、マンションや工場は建てるべきでない。
- ・ 松戸の産業の特色がわかりにくい。先端産業がない。これからは必要である。
- ・ 若い人が農業に従事できる政策が必要。
- ・ 全国10位以内の農作物がある。大型スーパーは、自分のところで農作物を作り始めている。松戸産のものが消費者に伝わっていない。10年後の話をするのであれば、補助金を出して育成すべき。生産から販売まで（地産地消）を考えるべき。
- ・ ねぎは全国順位が高いが、メインの野菜ではない。
- ・ かぶなら、漬物にするなどした方が良い。
- ・ 野菜は土地に合う、合わないがある。
- ・ 千葉大園芸学部と連携したり、矢切高校跡地を農業センターにして、若い人が農業を担えるようにしたらどうか。
- ・ 今の矢切ねぎはまずい。昔はおいしかった。大量生産するために、丈夫な種にしたらずなくなった。矢切ねぎはブランドなのだから、少量でもおいしいものを作って高く売れば、おいしいから買うのではないか。
- ・ 最近、異常気象による豪雨があるが、松戸市内の排水設備は1時間に50mmを想定している。改善してほしい。排水設備の見直しをして欲しい。舗装しているので洪水になりやすい。
- ・ 見えないところだから、市民にPRしにくくて、後回しになりがちなのではないか。でも、本来は大事なインフラ整備なのでしっかりやって欲しい。
- ・ 地球環境の問題と密接に関連がある。国土交通省は100年に1度と言っているが、異常な豪雨に耐えられるように整備することを他市では、やっている。しかし、小さい市が予算の中でできることは限られている。
- ・ 道州制といわれるが、国の予算を自治体がもらって、各自治体がある程度自由に使えないと難しい。
- ・ 大雨が降ると雨が溜まる所はいくつかある。
- ・ 水が浸透するアスファルト舗装にすべきではないか。
- ・ 自転車で安心して移動できるまちを実現して欲しい。
- ・ 電柱のために歩道があるような所がある。

- ・ 都市計画道路として新しい道路が整備されれば、歩道も造られるが、既存の生活道路は歩道がなかったり、歩車分離されていないところが多い。
- ・ 新京成の踏切の歩道が狭い。何とかならないか。
- ・ 新しいところは整備されているが、旧市街地の生活道路は手付かずになっている。うちのそばの生活道路は、歩道の幅が50cmくらいである。渋滞場所となっている。データ集をみると歩道を作る計画はある。優先順位、タイムスケジュールを決める必要がある。
- ・ うちのそばは、地元の要望がない所に道路を通して、無駄だと思った。郵便局の人が便利だから作ったのではないかと思う。郵便配達以外では使われていない。
- ・ 新松戸に住んでいる。歩道は広いが、真ん中に点字ブロックがあつて自転車で乗り越えると危ない。位置を何とかならないか。
- ・ 本当は自転車と歩道を分ける必要があるだろう。
- ・ 松戸市は美しい都市計画でないと思う。反対に矢切の斜面林は美しいと思う。松戸の特徴を活かすにはそちらを整備したほうが良い。
- ・ 住んでよいまちにそぐわないと思った。
- ・ 景観条例ができて、少しは良くなるのではないか。
- ・ 高齢者の人がフルタイムで働かないにしても、長い間の知識、経験を活かす場がない。
- ・ 工業団地の就業者には、何%は地元から雇用しなくてはいけないとか制限を設けたらどうか。
- ・ 私は常盤平に住んでいるが、趣味は時計を直すこと、草花を植えることです。もし良かったら植え方を教えます。このように、家にいて楽しみながらお小遣い稼ぎしたいという人が出てきている。
- ・ 団塊の世代が地域に帰ってくる。そういう人たちの力をどう活用するかが大事。
- ・ 地域コミュニティがなくなっている。町内会を使えないか。町内会を市で指導、教育できないか。
- ・ 松戸市では、町内会長が市政協力員になっている。これは、他地区ではない。
- ・ ボランティアをやりたい場合は、社会福祉協議会に行くと良い。
- ・ 町内会長、ボランティア会長養成講座を作ってはどうか。
- ・ 新しい町会運営のモデルがあれば知りたい。
- ・ 松飛台団地は良い例であると思う。お祭りとか、古いものを求める傾向があるようだ。
- ・ 我々の工場は松戸市に呼ばれたから工業団地に来たのに、住宅が増えると、音がうるさいとか苦情が多くなる。

- ・ 北松戸工業団地が一番古くて、昭和41年くらいに入居が始まっている。その頃は、日大の歯学部から江戸川の土手まで何もなかった。田んぼと畑だけだった。今は住宅が建っている。10年以上経ってから、音がうるさいといわれるようになった。入居したときは細かな取り決めはなかった。今のように住民の生活が大事ということになると、産業の中身は見直さなければならない。
- ・ 松戸市の考えで、工場をどうするか、うるさい工場は退場させるのか決めて欲しい。
- ・ 工場の周辺に住宅を持ってこないようにするか、最初に余裕を持って土地を用意して、緩衝地帯を設けるかだ。
- ・ 倉庫にすると人が必要ではない。製造業は人がたくさん必要になり就業機会が増える。
- ・ 法人税収を上げるためには、効果的な産業誘致を考えなければならない。
- ・ 市が10年後の産業をどうもって行きたいか考えてもらいたい。10年後に工業はいらないというのであれば、出て行くことも考えなければならない。農業の方が良いというのであれば、それもやむを得ない。
- ・ 梨農家は成功例である。値段は高いが、おいしいから売れる。
- ・ うちでは製造業で、24時間体制で稼働しているので、従業員は地元に住んでいる人が多い。工業が移動すれば、人も出て行く。

■ 対話での探求を踏まえて、共有された課題意識・想い・具体的な期待の中から特に重要だと思うものについてシールで投票した。

■ 項目の中で市民として貢献できることや課題に下線をひいた。

□ 以上の内容を整理したものが別紙

■ 対話セッション

- ・ 安全・安心、暮らしやすさを、それぞれ市民が関わることで得られる。
- ・ 都市づくりと農業、商業、工業がバランス良く進むことが大事。そうすることで住みやすくなる。河川についてもみんな関心が高い。
- ・ なぜ松戸に住むかの意義、市がやってくれるという受身ではなく市民が参加しているということ。松戸市を協働してみんなで作りあげる。
- ・ 市民と産業者が一体となったまちづくり。市民目線が新しい政策を生む。都市空間と産業、生まれた子どもたちが働けるまち。高齢者になっても働き続けられる、子や孫も住み続けられるまちになると達成感を感じる。
- ・ 自然を大切にすることはいつの時代も変わらない。今ある自然は最低限守る。行政だけでなく市民が積極的に参加。自分の家の庭を守るように。松戸市を

わが庭のように考えていけば、意識が変わるのではないか。

- 松戸が誇れるのは自然。江戸川を渡ると殺伐とした市街地。松戸の自然は守っていかねばならない。さらに、安全で安心して暮らせる必要がある。少子化の時代に若い夫婦が安心して子どもを育てられない。もう一方で高齢者が増える。両極の要求を満たすために、安全・安心の方向に行かざるを得ない。そう考えると、若い母親、学生、障害を持った人とも議論が必要。今まで行政任せにしていたことで、市民ができることは結構ある。60歳以上の自宅待機組の人たちを活用することが必要。
- 空き地や空き家が増えている。総務省の発表で8軒に1軒は空き家。松戸でも10軒に1軒くらいは空き家。空き家や空き地の活用をどうしていくか。行政ではなかなか難しいなら、所有者たちとの協力で緑化を進められたら良いなあと思う。
- 交通事故に遭わないようにするには、外に出なければ良い。しかし、水は飲まないわけにはいかない。江戸川の水は、きれいにしなければならない。ふれあい松戸川というのがある。昭和30年代、坂川が臭くてしょうがなかった。江戸川の堤防に立っても臭かった。水道局に連絡したら、さらし粉を使いきれいにしたが、臭かった。建設省の江戸川河川事務所の所長が江戸川の水きたないですねといった。こんな水を飲んでいるのですよと答えた。私たちが汚くしたのではない。工業団地の排水が流れているからだ。こんな水を飲んでいて健康になれますか。子どもたちがこれから日本を守っていきますか。そこで江戸川、坂川の水をろ過しようという計画が持ち上がった。江戸川の水は東京都の水源にもなっている。地下1500mにろ過装置ができ、ろ過をすることにした。だから、今は水が非常にきれい。ドイツからも視察に来ている。都市周辺でこれだけきれいな水はない。皆さんにできるだけきれいな水を提供したい。市民にも水のことを考えてもらいたい。松戸市に良い水を飲みにいこう。

■ 次回の説明

ここまでの探求を踏まえて、私たちは何を実現したいのかを政策テーマごとに検討し、「目指したい姿の宣言文」を作成。

■ チェックアウト

■ 分科会長あいさつ

- みんな楽しくなってきたのではないのでしょうか。次回は、良い宣言文ができるように頑張りましょう。

以上

政策	想い・課題意識	具体的な期待
<p>16 地域産業を振興し、豊かな経済活動ができるようにする</p>	<p>・松戸の地域資源（人材、文化、歴史、産物）を連携して、新しい価値を生み出したい</p> <p>・起業を志向・チャレンジする人の支援（1票）</p> <p>・ハードとソフトの連携</p> <p>・明るく元気なものに</p> <p>・松戸市にふさわしい松戸駅の整備（1票）</p> <p>●市内各駅周辺商業地の活性化（2票）</p> <p>●商業…個人の集まりである商店会が多く点在していましたが、大型店などの出店などで、あまり近年は良くないよう思える。</p> <p>●農林水産業…林水産業は、ここではあまり必要なこととは思えないですが、農業についても工業と同じで住民が増加し住居が多くなれば・・・むずかしくなるのでは。</p> <p>●工業…松戸市の人口が増加し、都市として大きくなれば、製造をする現場はやりにくくなります。</p> <p>●観光地は点在しているが、それを結ぶルートが未整備。（日帰りのウォーキングなどの需要は増、首都圏で）（1票）</p> <p>●空き店舗率の推移、8.3%、約10件に1件というのは多い。新規開店率は？</p> <p>●松戸市内の農業は都市近郊農業として発展してきたが、毎年減少している。農地を減らさない手だてが必要。（6票）</p> <p>●地場野菜（ねぎ、枝豆、かぶ）が全国的に上位にあることを知ったが市民に理解されているのか？</p> <p>●住宅地、商業地等のある程度の区分が必要ではないか。（2票）</p> <p>●農業を続けられるようになっているか。（相続税対策）（2票）</p> <p>●若い人の失業率が高いのは何とかしたい。</p> <p>●これからは、都心で働く人 ↓ 団塊世代の退職 地元に戻ってくる</p> <p>住みたい街とは</p> <p>●地域産業が振興しないと住みたい街にならない（2票） ↓ これからの松戸市</p>	<p>・シルバーカー・ベビーカーで楽々買い物できる駅周辺の中で中小の商店街の活性化（2票）</p> <p>・農・商・工連携による活性化（新しい事業の創出）（2票）</p> <p>・江戸川流域の河原・平地を新しい農業の拠点に</p> <p>・産業の振興 → 経済の活性化 → 生活の豊かさ</p> <p>●農業、観光、小売（商業）とのコラボレーションを図る。（2票）</p> <p>●工場、農業の区分けをしよう（1票）</p> <p>●若い意欲ある人が農業を出来るような政策が欲しい。（2票）</p> <p>●データ集からは松戸の産業の特色が読みづらい。</p> <p>●観光についてはPRをしていないのか。県外、市外の人を呼ぶ努力がみられない。</p> <p>●計画的農業政策が必要。</p> <p>●産業では先端分野が少ないのではないか。政策誘導が必要。（1票）</p> <p>●官民で経済活性化のプロジェクトチームを立ち上げよう。（1票）</p> <p>●矢切高校を農業開発、研修センターとして活用し新しい農業政策を行おう。</p> <p>●千葉大との連携。</p>

政策	思い・課題意識	具体的な期待
17 個性を活かし、能力を発揮して働くことができるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気なものに ●景気（国・世界）に左右される強み ベッドタウンであること ↓（地理的背景） 若年層の流入多い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の振興 → 経済の活性化 → 生活の豊かさ ・熟年者の活用（いきいき活動できるまちづくり）（3票） ●高齢者の就業場所が少ない。地元企業へのアプローチを。（3票） ●若い起業家の育成、応援。（3票） ●退職後の就労、趣味を生かした仕事、個人的な仕事でも協調する場づくり。（3票）
18 ゆとりをかんじるまちに住むことができるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ●美しい都市景観がない ↑↓ 斜面林など緑の景観は豊か ●人口の推移について現状維持の線ですが、回帰傾向が高まり都市人口と共に減少するのではないかと思量されている。また江戸川存在により市域の発展は難しいと思います。（2票） ●高齢化社会に対応するまちづくりのあり方（既設の小さなまとまりが点在化、商店、駅数など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各駅周辺の機能充実 ●公共施設のバリアフリー化 ●美しいまちなみを増やす。（景観保護条例、景観保護地域地区）（2票） ●地域コミュニティの再生が必要 ●地域健常高齢者の連絡網（地区的）の作成（2票） ●市営住宅 昭和55年以前が半数、耐震性とバリアフリーの問題 ●政策18 ”1住環境が整ったまちにする”（1票） 景観条例の大切さ＝市民の意識づけ
19 誰もが安心してスムーズに移動できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・広幅員道路の不足 ・交通安全施設の整備、点検の促進（警察・行政・住民の連携）（1票） ・高齢者が安心して住めるまちづくり（移動手段e t c）（3票） ●幹線道路と支線の交通網に計画性や先見性がない。 ●生活道路で安心できないところがある。 ●車で移動しやすいことを市民が望んでいるのか。（1票） ●新しい都市計画道路は必要か。 ●新京成線の踏切道路が狭く渋滞の原因にもなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通アクセスの整備 コアの施設への交通網 交通弱者対策 ・人にやさしい道づくり ●高速道路へのアクセスを良くする。 ●都市計画道路の整備、促進（但し環境保護が前提） ●安心して歩ける、安心して自転車で移動できるまちづくりが求められる。（4票） ●人が安心して歩ける道、自転車専用道路の整備を最優先にすべき。（5票） ●歩道の整備（安全確保） ●市内循環バス網の整備（2票） ●「人にやさしい道づくり」の基準の制定と優先順位を決めるべき。 ●バリアフリー化は少子化、高齢化の進みに追いついていない。スケジュールを明確にすべき。 ●全体に6号線側の整備が遅れている。公共交通バスの駅への完全乗り入れの実現。（1票） ●松戸駅のエレベータの設置

政策	想い・課題意識	具体的な期待
20 安全な河川に整備し、きれいな水とふれあえるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・水道水源の江戸川の清流の保全 ・河川における自然景観による癒し感 ・スピード感の社会にあってホッとするような町づくり（自然美の保全） ・河川と自然環境を守る（4票） ・江戸川の資源を活かした街づくり ●江戸川河川（矢切）観光としての具体的な進め方（4票） ●災害の場合の河川の利用 ●松戸市内の河川のソフト面での施設、憩いの場作り ●水害…安全な川となっているか、水とふれあえるようになっているか ●河川の整備と合わせて自転車専用道路網をつくる（2票） 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑を保持するよう、河川には親水広場等を設置する ●河川が癒しの場となる川作り（2票） ●親水護岸をも含めて市民の憩いの場は”点”でなく”線”に（2票） ●市の西側を流れる江戸川周辺の親水空間を生かしていきたい（4票） ●矢切地区にラベンダー農園等農業の活性化（1票） ●子どもたちが楽しめる河川作り
21 いつでも安心して水道水が使えるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも使える飲み水がある ●水利用 行政の本音はどこに？ 節水して地球環境を守る ある程度の量を使い、赤字事業からの脱却 	
(その他、全体的なこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害にそなえた街づくり（地震・温暖化による異常気象にそなえる） ・拠点の育成 ●異常気象による豪雨は、日本列島どこにでもおこり得ると気象庁の発表があった1時間に200mm以上の降雨量が記録されている（山口県防府市・兵庫県佐用町） 松戸は1時間50mmを想定した排水設備なので見直しが必要だ（3票） ●公共施設の耐震性能の強化（1票） 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の幸せ ⇄ 市としての発展 ・環境対策（自転車利用の拡大 → 安心して走れる・歩ける道づくり） ・社会的弱者の視点での施策（一人ぐらしの高年齢者を守る） ・メリハリのある市街地形成 ●各公共施設等の整理、集約、統合を図り、機能を効率化する（3票）